

# ルルドの丘

2011  
2月  
No.19



目次	みことば・きらりん .....	2	ヴォイス(2) .....	8
	巻頭言 .....	3	ぽっかぽか .....	10
	ヴォイス(1) .....	4	ぴかぴかぴか .....	11
	おでかけ・できごと .....	6	行事予定・編集後記 .....	12

社会福祉法人 聖母の騎士会  
恵の聖母の家

▼「みことば」では聖書等の御言葉をお伝えします ▼「きらりん」では皆様の活動をお知らせします

# みことば

人生は、ただ愛によってのみ、その意味を得る。  
愛すれば愛するほど、自らを与えれば与えるほど、  
人生は、いっそう意味深いものとなる。

ヘルマン・ヘッセ (1877~1962)  
(ドイツ人作家、1946年ノーベル文学賞受賞)



# きらりん

## スヌーズレン

スヌーズレンはオランダのエーデという町にある知的障害を持つ人々が住む施設、ハルデンベルグセンターで生まれた活動とその理念を言います。スヌーズレンという言葉は、オランダ語の「スヌッフレン (くんくん匂いを嗅ぐ)」と「ドゥーズレン (うとうとする)」という二つの言葉から造られた造語です。治療法でも、教育法でもありません。どんな人でもありのままの自分を受け止められ、自分で選び、自分のペースで楽しむための、人生の大切な時間です。今では、重い知的障害を持つ人々の分野だけでなく、様々な分野へと広がっています。心地よい感覚刺激 (光・音楽・感触・香りなど) を提供し、それらを楽しみながらリラックスしてもらう活動です。では、スヌーズレン活動の紹介をさせていただきます。活動を始めて2年になります。



目標①スヌーズレンでの体験を積み重ねる事で、安心感や安らぎを味わい、リラックスできる空間作りをする。②五感を刺激し、様々な感覚機能を養う。参加者は3名で支援者2名、月1回行っています。活動は挨拶から始まり、光 (注視、追視)・音 (音楽)・臭 (アロマ)・感触 (感覚刺激) をそれぞれ体験して頂き、終結といった内容です。参加利用者それぞれ異なった感性を持っておられますが、50分という活動時間の中で、感覚に直接訴える刺激を通してリラックスされ、ご自身の楽しみ方を選択されています。今年度は参加利用者のお母様 (2人) にも参加して頂きました。その後、面会に来られた時「以前に比べると最近はずっとものを眺める事が出来るようになった様に思います」と、活動の様子を見られてご感想を頂いています。まだまだ活動としては浅く手探り状態ではありますが、参加利用者の想いを汲み取り、心地よい時間を過して頂けるよう取り組みを深めていきます。

(生活福祉科保育士主任 高橋文子)

表紙は臼杵市民会館で行われた人権標語の表彰式の様子です。(詳細は、7ページ左上段)

## 巻頭言

# 園長 佐藤圭右

患の聖母の家は児童福祉施設です。法律で規定されていますが、「治療及び日常生活の指導をすることを目的とする施設」となっています。ところが、最近、保育士の立場が問われているようです。自分は、保育士だけでなく最近忘れ去られているような児童指導員も、大切な職種だと思っています。

昨今、法律や規定が変わっていく中で、児童指導員がサービスマン管理責任者にとって変わっていつているような気がします。児童指導員や保育士が看護師や介護福祉士と同じような仕事をしている、またはそう見られているように思えますが、それでよいのでしょうか。

昨年の重症心身障害療育学会で、当園保育士の赤嶺らが「視覚障害を有する重症心身障害者の生活の質を考える」を発表しました。目が不自由でしかも言葉が十分理解できていないだろうと、永年スタッフに理解されていた一利用者さんを、赤嶺保育士さんが「本当にそうだろうか」ということに気づき、この研究に結び付けました。

利用者さんの年齢は五十歳代です。二十歳をとくに過ぎていきます。視覚障害で目が見えない、そして下肢がうまく動かない。さらに最重度の知的障害と考えられています。この利用者さんに、どのように接していけば良いか、本当に言葉の理解ができないのかどうか、考えてみようという取り組みました。

病棟の全スタッフが関わられるように、そして日常生活動作の中から「ベッドから降りる」ということを考えてやってみました。実際「Aさん、ベッドから降りますよ」と声掛けをしても何も反応しませんでした。今までは、スタッフも忙しいこともありまして、声を掛けはするが、すぐに介助の手を出して一緒に降ろしていました。つまり、声を掛けるといことが有効でなく、声掛けとボディタッチのタイミングが不適切と考えられました。

そこでみんなでカンファレンスをして、対応を統一しよう、働き掛ける際の留意点をベッドにくくりつけて、そして、みんなでこういう取り組みをしてみたらどうか、ということからやってみました。そうすると二か月して「Aさん、ベッドから降りますよ」と声を掛けると、ベッドから自然に降りることができるようになりました。要するに言葉を理解

できないと思われていた人が、理解できるようになりました。さらに、このスタッフが声を掛けても、多少早口でも、方言でも降りることができるようになりました。しかし、実は自分たちが気付いていなかっただけでは、アプローチの仕方が悪かったのではないかと考えられます。

コミュニケーションの成立が、病棟のスタッフの協力によってうまくいったと思っっているのですが、やっぱりこれは保育士という職種が関係していたのではないかと自分は考えます。

重症心身障害者というのは成人を過ぎても少しずつ発達が見られています。保護者の皆さまが言われるように、少しの発達でも喜びを感じるのが大切だと思います。一年前とは違っているのではないかと、昨日とは違っているのではないかと見守り、少しずつでも伸びていくことを確認したいものです。

重症心身障害児者施設として、命を守るのはまず当然ですが、レクリエーションだけではない、教育の意味が言まれている「療育」を児童指導員、保育士と考えながら、今年も進めていきたいと思えます。今年もよろしくお願ひします。

# 医局



恵でいほん

小児科医 曾根律子

本日は当直であります。先ほど夕食にオムレツカレーを美味しく頂いて参りました。恵での食事と言えば、玄関から病棟へ行く途中、普通食、3種類のキザミ食、ミキサー食の見本写真がありますよね。それぞれ盛付けも工夫されていて、とても美味しそうです。写真は行事食ですが、普段の利用者の皆さんの食べているキザミやミキサーはどんな味なのか、気になった事はないでしょうか？ 昼の検食をしている私が個人的な好みだけでレポートしてみます。まずお勧めは煮物です。これはキザミ、ミキサー共に美味しいです。カレーやシチューはもちろん、肉じゃが、筑前煮、八宝菜なども、そのまま普通にご飯に載せてもあまり違和感無さそうです。味がしっかりしているか

らでしょうか。特にミキサーは、醤油味の煮魚よりも魚ミンチのケチャップ煮の方が食べやすい気がします。魚料理は薄味だと水分の多いミキサーでは魚のにおいが目立つのかもかもしれません。でもそんなミキサーも、焼魚ならパサ付きがなくて食べやすくなっています。豆腐料理も風味が変わらずまったりしていて美味しいですね。卵料理もフワフワの食感は薄れますが、味は普通食とあまり変わらない気がします。逆に少し残念に感じるのは生野菜でしょうか。パリパリの食感が無いのとやはり水分が多いので野菜の生っぽさが気になってしまいます。これはドレッシングと一緒に食べたなら大丈夫なのかも？ 麺類もキザミでは気になりませんが、ミキサーになると少し粉っぽさを感じられます。でも好み焼きだと粉の味は分かりません。ちょっと不思議です。

キザミやミキサーは見た目目で味を予想するのが難しいのですが、実際に食べてみると、食感に限られるものの、味自体はあまり変わらないことが多いですね。オムレツカレーもきつと美味しいんじゃないかな？

# 看護科 看護有



(バラ・スモースレディ)

私の庭物語

看護師 佐藤静江

「私は庭が好きで好きでたまりません。どうしようもないくらい。庭の世話をしているだけで満足です。」と言っているのは、ガーデンデザイナー・画家のターシャ・ユータさんですが、私も同感。のんびりと一日中、四季折々の草花と触れ合う事で、さる時間が大好きです。

15年前、住んでいた借家に土いじりをする土地があった事がきっかけで、当時保育園に通っていた息子達と土に触れ、花や野菜を育てる事ができたのが始まりです。植物の生長と共に子どもも成長し、夢中になっている私に現在高3の息子が小1の頃、「お母さん、お茶入ったよー」とお茶とお菓子を用意して

くれた事もありました。(笑) 家を新築後は、土を入れる事から始まり、コツコツと草花を増やし、試行錯誤をしながら11年かけて、友人に勧められたバラと宿根草を中心にハーブや果実など100種類以上の植物が育つ庭になりました。

目指すイングリッシュガーデンにはまだまだ奮闘中ですが、草取りをしながら、寒い中で木々が芽吹いているのを発見したり、花がっほみをつけた時の嬉しさは感動ものです。

自己満足かもしれませんが：庭は身近な自然で、その自然に触れることで心が落ち着き、リフレッシュできます。3年前からは落ち葉や生ゴミでの堆肥作りにも挑戦しています。次のプランにむけて庭物語は続きます。



(5月に咲いたつるバラ・コーネリアー)

# 洗濯



## 我が家のお花のお話

スタッフ 佐藤悦子

我が家は花に触れて一年を過ごしています。冬の今頃は胡蝶蘭の花芽が出てくる時期です。胡蝶蘭自身、咲くのを楽しみにしている様子です。もう一カ月もすると咲くでしょうか。胡蝶蘭は手間のかからない花ですが、寒い時には暖かいところに置くことが大切です。

春には種を畑にまき、6月になるとカサブランカがきれいな花びらを見せてくれます。カサブランカは虫がつきやすいので手入れが必要になりますし、田舎ではないのですが、どうやらインシシの通り道になっているようで、時々食べられてしまうことがあります。カサブランカはユリ科なので食べてしまうのでしょうか。育てるのにちょっと注意が必要といったところでしょうか。同じく、6月から秋口にかけて咲くバラは、じつは虫がつきやすいの

で手入れが大切といったところです。家の周りや畑に植えています。赤やピンク、紫の花が咲きます。今、バラは「寒越え」といって芽が出るのを待っている時期になります。花が咲くと我が家ではドライにして飾ることにしています。一年たつとほこりがつくので一年ごとにかえるようにしていますが、バラは良いですよ。すごく良い。持って来て職場にも置いたりしますが、香りがとても良いんです。皆さんにもお勧めです。

11月から12月は菊です。もらったり差し替えたりして育てて、ご先祖様にさげたりしています。そのようにして花と一年を過ごしていますが、育てていて面白かったものもあります。それはパイナップルです。鉢で育てて、夏は外で、冬は家の中で育てています。2年から3年に一度実がなるんです。それは町でみるものよりも小さくてたまごくらいの大きさですが、芯も小さく、皮も薄くて、食べることも甘いんです。前回なった実は職場の皆とわけていただきました。このパイナップルの実は一度育てることはできないので、横の新芽を育てることになります。皆さんも一度育ててみると面白いかもしれません。今度はこんやくを育ててみたいと考えているところです。

# ごたま



## デイサービスでは

通園スタッフ 中村順子

今年は「うさぎとし」です。デイサービスでは、療育活動の中で毎年恒例となっているカレンダーや干支の置き物作りをして、年末に利用者の方へお渡ししています。

11月に入り、少し寒くなりはじめ、外での散策の回数が少しずつ少なくなっている頃から新年に向けてカレンダーや干支の置き物作りをはじめます。今年の干支が「うさぎ」ということで、昨年末からうさぎをモチーフにして、置き物は、風・カレンダーはちぎり絵を加えて作りはじめました。利用者の方とスタッフがそれぞれ

得意な所を担当して協力しながら作っていきます。主に利用者の方が紙を貼ったりちぎったり、色を決めたりしてくれて、スタッフが細かな所を切ったり、形を作ったりしています。どんな形になっていくか完成に近づくとみんなとっても良い表情を見せてくれます。今年もとてもかわいいうさぎの置き物、そしてカレンダーができました。送迎の時に玄関先などで療育の中で作った物が飾ってあるととてもうれしくなります。

今年も利用者の方と元気に楽しく活動の中で散策をしたり、いろいろな物を作ったり、たくさんのお話をして過ごしたいと思います。



写真は干支の置き物とカレンダーです。

## 小児科医と遊ぼう！10月11日（月）

日本小児科学会大分地方会と大分県小児保健協会主催で、自閉症親の会や在宅の方、近隣地域のお子さんやご家族の方を対象とした“小児科医と遊ぼう”が高尾山自然公園で開かれました。当園からも利用者の方2名が参加し、いつもは恥ずかしがりやの利用者の方もゲームコーナーではスタッフと楽しんで笑顔を見せたり返事をしたり、参加賞や景品は自分の好きな物を選ぶことができていたのですが、少し緊張もあつたようです。



## ときめき作品展 11月30日（火）

大分県障害者社会参加推進協議会主催で、第12回大分県民芸術文化祭参加行事である“ときめき作品展”が大分市アートプラザで11月26日から5日間開かれ、当園からは個別活動やグループ活動、余暇の時間にコツコツと制作に取り組んで完成させた力作（絵画の部2点、工芸の部3点）を出展しました。多くの方にご覧いただけたのではと思います。会場には3名の利用者の方も観に行き、作品をみつけて嬉しそうにされる方、ご自分の作品を支援者に紹介してくれる方、展示をしっかり確認される方とそれぞれに展示を楽しまれたようです。他の方の作品も参考になった様子で、「また来年も出展したい」と次への取り組みを意識された利用者の方もおられました。



## 野津中学校吹奏楽 10月9日（土）-こだま-

野津中学校吹奏楽の皆さんが「スターウォーズのテーマ」「ルパン三世のテーマ」「キセキ」を非常に丁寧に細やかなハーモニーで聴かせて下さいました。演奏の合間には楽器の紹介や特徴も教えていただき、利用者の皆さんも興味津々だったようです。また、利用者を取り囲んでの演奏「キラキラ星」「かえるのうた」では、利用者の方も鈴等を手にして一緒に演奏して、終りには合唱を聴かせて下さいました。若い純粋な声が響いて利用者の方もじっと聴き入っていました。演奏して下さいました皆さま、ありがとうございました。



## お餅つき 2010年12月18日（土）

天気も良く、餅米も白い湯気を登らせながら蒸しあがっていました。杵と臼でつきあがったお餅の味はまた格別で、もっと欲しいとアピールされる方もおられました。



## 9月30日（木）

内山観音

雨天のため、病棟ホールで紙破りや絵合わせといったレクリエーションを行っています。今回参加された利用者の方は「静かに過ごされる方」「関わりに緊張のある方」なので、レクに対してはどうかと思っておりましたが、紙破りでは手をよく動かして声を聞かせてくれたり、日頃は入眠傾向なのによく起きて過ごされて、関わりに緊張される方も活動の合間のおやつに穏やかに過ごされたようです。普段と違う雰囲気 indoors のレクに感じられ、帰室の際は笑顔を見せて下さった方もおられました。（芦刈朝寿・佐藤寿洋）



## 10月14日（木）買い物 野津

朝食前の買い物についての話しかけに喜ばれて出発前からテンションがあがる方、着替えの時に「素敵なお洋服ですね」との声かけに笑顔で返事を聴かせて下さった方もおられました。9時半にはお店に着き、支援者が「お菓子を買いますか」とお聞きすると、利用者の方は手をよく伸ばして商品に触れて笑顔を見せてくれたようです。お店では指をさして選んだり、商品を渡されるとかごに入れたり戻したりしてご自分で選ばれる方もおられました。また、入浴剤など生活で使われるものを購入されたようです。（河野潤二・竹尾昭彦）



## 10月28日（木）臼杵マルシヨク

3家族にご参加いただくことができました。移動中の車内では笑顔の方も多く、到着時は開店直後で混雑もなく、落ち着いて買い物をすることができました。「色鉛筆を、カセットを買いに行こう」の声かけに「買いに行こう」「お願いします」と返事をよくされたり、店内では周囲を良く見てとにかく手で触ったりしていました。大好きな缶コーヒーを買ってすぐに開けたい方、ご家族と一緒に服を選んで、「もっと欲しい？」と聴かれると「もっと欲しい」気持ちを示されたり、商品が目に入る度に手を伸ばして「これが良い」と気持ちを伝える方、逆に服よりもパンなどを買っておいしくいただく方など様々でした。（竹尾昭彦・河野潤二）



## 11月25日（木）臼杵マルシヨク

事前に買うものを選んでいった方は、お店に到着後、待ってましたといった感じでジュエチャーで欲しい物を全て買って満足そうにされていました。他の方も玩具や服に笑顔で手を伸ばされたり、店内で何を聴かれても笑顔で、アイドルの写真集などに興味を示される方、大好きな付き添い者の手を握って、できたてのタイ焼きをおいしくいただいて楽しまれた方、また最初にテンションがあがって、後半は疲れがみられた方とさまざまでした。（竹尾昭彦・高岡英二）



# できごと

始めてとうございます!

**2010 フェスタ・ザ・じんけん (臼杵市主催)**  
入選標語“手をつなぎ ところと心 ぽっかぽか”  
当園では8月の人権月間と12月の人権週間に人権に関する展示会を病棟ホールで開催しています。8月に人権ポスターと標語を募集し、利用者の方、そしてご家族の方からご応募いただいたものを9月に臼杵市に提出したところ、平成22年度臼杵市人権作品一般の部に当園の利用者の方が入選され、12月18日の表彰式で教育長賞をいただいています。式は市民会館で行われ、利用者の方はお名前を呼ばれると大きく返事をされて、教育長の吉田さまから賞状をいただき、会場からのたくさんの拍手に満面の笑顔を見せていました。今後いろいろなことにチャレンジしていきたいご様子でした。(権利擁護委員会 丸山久幸) ※受賞式の様子は表紙に掲載しています。



**サンタプレゼント 12月24日(金)**  
あゆみの広場では午前中、のぞみの丘とひかりの大地は午後に行っています。のぞみの丘はサンタさん、ひかりの大地はトナカイとサンタガールといった感じで、それぞれ違うプレゼンターが利用者の方にプレゼントをお渡ししています。プレゼント前にはクリスマスケーキをいただいて、クリスマスの喜びを皆で分かち合いました。

**クリスマスごミサ 12月25日(土)**  
ごミサの前に行われたトーンチャイムの演奏や屋内を暗くして天使(託児所の子どもたち)と神父さまによるキャンドル・サービスにより、ホールはとても神聖な雰囲気になりました。神父さまからは「クリスマスはサンタさんの来る日ではなくてキリストのミサからきていること。ミサはイエスさまを祝うもので、イエスさまとお祝いをする、人間を救うために救い主がお生まれになったということ。赤ん坊の誕生はとても喜ばしいことであって、赤ん坊が生まれて怒る人がいないように生まれてきた人の幸せを願うことは普遍的なことを示していて、それは人の幸せを願うということにつながる。また、神さまが親が子を大切に思う心、すなわち親心を表されたことでもある。一人ひとりの幸せを願う心、それは神さまの心であり、親子の気持ちでもあること」と話して下さいました。



**お正月 2011年1月1日(土)**  
元日の朝、朝食後にホールに集まって、利用者の方、そして職員、他の方と一緒に新年の挨拶をしています。聖歌「初日の光」を歌った後に園長先生から「今年はずうさぎ年なので、去年頑張ってきたことがさらに発展して、去年よりも充実させていけるようお手伝いしていきたいので頑張ってください」とのお話がありました。年男、年女が紹介された後に支援者2名による笠地蔵のお話で初笑いをしています。一年の無病息災を願うお屠蘇では杯をなめて大好きなことを示される方もおられました。

(※6-7頁文責 広報)



## ふれあい運動会 10月16日(土)



“みんなで力をあわせよう 息をあわせよう”と、利用者の方が今年も素敵なテーマをつけて下さいました。会場には、たくさんのボランティアの方と来賓には臼杵市長の中野さまもおみえになり、華やかな運動会となりました。プログラムは競技と全体ダンスの構成です。並べられている提灯の一つ選んで、その中に入っている数字の数だけかごに玉を入れて点数を競ったり、箱からのぞいているヒモを全部ひっぱり出して次の方につなぐリレーやスティックなどでボールを転がして得点を競いました。また園以外の方が楽しめるように時間内にたくさんのキャラクターカードをめくったり、ダンスではカラフルな布をまとって皆で「風になりたい」を踊りました。昨年の優勝は紅組。今年は白組が優勝しました。会後の記念写真では、皆さん、力を出し切った表情をされていました。部屋に戻ってからは「運動会弁当」をおいしくいただきました。



## かしのみ少年少女合唱団 11月13日(土)



めぐみ会の主催で3回目となる今回は55名の皆さんが素敵な歌声と笑顔を届けてくれました。はじめは「さんぽ」、そして皆の中に入って「ドレミの歌」を利用者の方の手や肩を触って歌を伝えて下さり、「今年も恵の聖母の家の皆さんと歌えることを楽しみにやってきました」との温かい挨拶をいただきました。また小さな子どもたちが中心となっている“すもっちゃん”も登場して利用者に関わって歌う♪幸せなら手をたたこうでは、利用者の方も嬉しそうに笑って楽器を鳴らして楽しみました。会の終りには合唱団の方から「皆さんと歌えてとっても温かい気持ちになりました」との感想もいただき、公演の終りには利用者の方々が退出されるまで歌声で見送って下さいました。これからも素敵な歌声を聴かせて下さい。



**クリスマスの集い 12月11日(土)**  
エコー・ド・ノートルダムの方々のコーラスで始まり、「四季の歌」では会場の皆さんも自然と口ずさんで、どこか懐かしい雰囲気が広がっていきました。続く吹奏楽の臼杵ウインドアンサンブルさまは映画音楽サウンド・オブ・ミュージックのメドレーや「会いたかった」「ジングルベル」他を演奏して下さいました。今年は演奏者のイニシャルからなる「OFKモンブラン」(ツリーチャイム、ピブラフォン、ボーカル構成の利用者バンド)の出演もあって、「渚のアデリーヌ」「あわてんぼうのサンタクロース」を一生懸命披露する姿に会場もおおいに盛り上がりました。聖劇では、マザーテレサの生誕100年にあたり、世界や身近な問題に触れたスライドを流しながら平和や愛を考えました。支援者が聖家族や関係者に扮したクリスマスの場面や他のスタッフのトーンチャイムの音色にクリスマスの意味をあらためて皆で考え平和を祈りました。



# 栄養科



## ひと手間かけた食事

調理師 安藤 淳

食事は一日の活力となり、エネルギーを生みだしてくれるものだと思います。そして皆さんの中にも楽しみに待っている人がいらっしゃるのではないのでしょうか？ 食事をおいしく味わえるのも食材に誰かが手を加えているからで、それによりおいしい食事をいただくことができます。私は利用者の方々に毎日喜んで食事をしてもらえるように取り組んでいます。それはただ単に「作って出す」ということではなく、個人に合った食事形態・アレルギー・食材に対しての配慮であったり、目で見て楽しむというのも食事をとる上での楽しみの一つだと考えています。昨年10月に大阪で行われた全国重症心身障害児（者）施設の職員研修会に参加してきました。その中で行われ

た調理師の意見討議会では、さまざまな意見の交換がありました。やはり毎日の食事を提供していく中で、食材や味に対してそれぞれが工夫を持ちよりの利用者の方に満足してもらえ、様に日々努力して取り組んでいるのだと感じました。

現在、私たちが生活する上では機械化の時代となっており、調理器具も時間も手間を短縮でき、便利で機能的な調理器具も多く利用されています。でも私は、手をかけて作ることがその食材以上のものをひき出すこととなり、それによりおいしく満足してもらえる様に思っています。

これから今以上に、学んできたことを活かし、利用者の方々に安心しておいしい食事を提供していきたいと思っています。

行事食の写真を12ページに掲載しています。

どうぞご覧下さい。



# 地域福祉科



## 自立支援委員会が

### 機能するために

地域福祉科主任 井上勝己

障がいを持たれた方が地域で過ごすことを目的として、「障害者自立支援法」が施行されました。その中で規定された相談支援事業が効果的に運営されるために、地域の障がい福祉に関するネットワークの推進を目的に、自立支援協議会が設置されています。この自立支援協議会とは①情報機能②調整機能③開発機能④教育機能⑤権利擁護機能⑥評価機能の6つの機能を有しています。他に、地域で抱えている課題について関係者が集まり、個別支援会議、協議会の運営の方向性を進捗管理する事務局会議、地域の抱えた課題について、メンバーが集まり、

議論を深める専門部会、実務者レベルの定例会があります。児童・精神・地域生活・就労の4つが臼杵市の専門部会として構成されています。

地域福祉科では、児童部会に参加させていただき、委員は、教育・医療・福祉・保健等の関係者や当事者の保護者も加わっています。現在の取り組みとしては、地域の実態把握、そして困難な事例に対する報告となっています。

今後は実態に即したサービス提供ができる資源の開発・改善を行っていく予定です。また、臼杵市教育委員会では、誰でも同じように支援が受けられるよう「支援ファイル」の作成が開始していますが、これもこの部会に関係しています。患の聖母の家では短期入所の方、また発達外来では療育訓練や診察が関係しています。

適切で中立公平な医療・福祉の提供を目指し職員相互の研鑽を図って参ります。





## 生活科 福祉



健康と笑顔を大切に！

保育士主任 林 直見

二〇〇九年にあゆみの広場に移動して一年と半年が過ぎました。

あゆみの広場での療育活動は、医療中心の体制ながらも、利用者20名で元気で明るく楽しい療育活動を行っています。

朝、「おはようございます」の挨拶で1日がスタートします。看護師から「今日は何をしますか」と尋ねられ、さあ！療育活動開始です。

一人ひとりの健康状態をチェックして車椅子に乗り、ホールでテレビ、ビデオ視聴、季節行事の事前学習、健康体操、レクリエーションなど、看護科の協力にて活気に満ちあふれた活動を行っています。また、利用者に合わせて、手浴、散歩、日光浴、本の読みみか

せ、音楽鑑賞などを行い、一人ひとりのコミュニケーションを充実させています。

更に、あゆみの広場は車椅子やベッドで部屋から直接、テラスへ移動できるので、車椅子やベッド上で、太陽の陽射し、小鳥のさえずり、虫の声、秋の気配など、移りゆく自然を肌で感じることで、利用者、支援者共に自然を満喫しています。月に1回の誕生会ではご家族の積極的な参加によって会も盛り上がり、ゲームなどを楽しめています。たくさん療育活動の中で利用者の表情、発声、会話、サインなどで、発見、喜び、感動を与えてもっています。

医療中心のあゆみの広場ですが、看護科と連携しながら、利用者の生活リズムを整え、自己表現を大切に、一人ひとりの趣味や楽しみを充実させて、生き生きと過ごしていただけるように療育活動を支援していきたいと思っております。そしてあゆみの広場に集まると、笑顔がいっぱいになる花を咲かせていきたいと思っております。

## 訓練科



大女優を目指して

言語聴覚士 山口紗智子

この一年は「スタート」ということばが、ぴったりの一年でした。大分での生活や、言語聴覚士として、社会人としてのスタート。初めてづくしの一年でした。

まず、大分に来て一番初めに思ったことは、「寒い・・・」でした。つい数日前まで南国宮崎で生活していた私には隣の県に移っただけなのに、極寒の地へ来た気分でした。この冬もまだまだ寒さは厳しくなるかと思つと・・・。

さて、普段のお仕事は、外来と入所者様の訓練に分かれています。今回は外来のお子様と関わる中で思うことをひとこと。

その一、「言語聴覚士は女優よ」

これは学生時代の恩師のことばです。まさに、その通り。お子様に

対し「優しい先生」だけではなく、怖い先生、優柔不断な先生、わがままな先生、そして時には母親、友達、子分など立場を変え関わる必要が要だと働き始めて実感しました。しかし、役へのなりきり、どの役が必要なのか、見極めることが難しいのが現状です。そんな私はまだまだ子役だなと痛感する日々です。

その二、「十人十色」

十人のお子様がいれば、十の考え方があふれる。臨床を行う上では当たり前のことです。大学でも耳にタコができるほど聞いたセリフでした。しかし、入職してこの意味を改めて実感しました。十人のお子様がいれば、十人の親がいて、十の考え方があふれて、十の方法がある。自分の価値観で判断するのではなく、相手と同じ目線に立って判断することが大切ということを再確認しました。

全てが初めてだったこの一年。この一年で学んだことを活かして、言語聴覚士として、社会人としての二年目も十人十色を忘れず大女優目指し頑張ります！



## 保護者の皆様から

### あらたな旅立ち

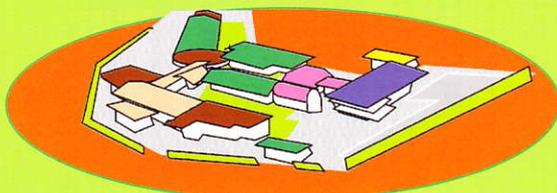
千木ティ子

早いもので「恵さん」に入所して1年8カ月が過ぎようとしています。娘は36歳になります。

最初の「恵さん」との係わりは、以前、佐伯市内にあります「さつき園」に通っていた頃、恵の地域福祉担当の井上さんとの出会いでした。当時月1回の園長先生の診察、リハビリの実現、短期入所も経験する等、沢山の機会を与えていただきました。節目時には幾度となく不思議なことにタイミングよく道が開けてきました。今回も入所に至る迄もトントン拍子に決まり、恵まれていることに感謝です。急に通知が入り、気持ちの整理ができなかったのも事実でしたが、今思うと娘の体力の衰えも多少なり出てきていますので、入所でき、支えていただく安心感で救われています。

面会時に思うことは、利用者さんが和気あいあいとしていて、表情豊かな姿がとても印象的です。愛情が注がれていることに安堵しています。娘も言葉を発することは健在ですので、コミュニケーションがとれていくと良いのですが、荒口調が欠点で、驚かされることもありますが、昔から冗談を言い、周囲を和ませる一面もありましたので、自然体で接していただければと思っています。お仕事とはいえ、職員の方々のご苦勞も日々おありでしょうけど、陰日向なく支えていただいていますことに感謝いたします。

最後になりましたが、娘のお陰で新しく色々なことを学ぶ機会が増えましたことも私にとっても大きな財産になりそうです。



大分支援学校教諭

## 支援学校 訪問教室

馬見塚みほ

初めまして。大分支援学校の馬見塚です。本校中学部1年生の生徒さんの担任をしています。このたび、恵の聖母の家の方々のご理解をいただき、生徒の方がショートステイ利用期間中に園内で訪問授業をさせていただくことになりました。本校高等部の相馬先生と生徒の方の授業も9月から実施させていただいており感謝いたしております。相馬先生の授業同様よろしくお願いたします。

私は昨年度から訪問教育の担当をしています。そこで本校の学習の様子を少し紹介させていただきます。現在4名のお子さんが訪問教育を受けています。色々な素材を使った感触遊びや匂いを楽しむ学習、楽器を使った音遊びなど、一人ひとりのお子さんが少しでも楽しめるように活動を工夫しています。学期に1回は複数教員での授業も行っており、今年度は「夏祭り」と「お月見」の学習を実施しました。ご本人は、「夏祭り」の学習では、数年ぶりに学校に登校して、同学年の友だちと活動を楽しむことができていました。一緒にお囃子の音を聴いたり、かき氷を作ったりして、季節の行事を体験し、その中でよい表情をたくさん見せてくれました。

園内での訪問授業でも、「心地よい」「楽しい」と感じてもらえるよう取り組みます。担当の看護師の方と相談しながらすすめていきたいと思っておりますので、よろしくお願いたします。



(12月24日の授業の様子)



# ★ ぴかぴか ぴかぴか ぴかぴか ★

少し前に入られたスタッフをご紹介します。①お名前②職種③お住まい④趣味⑤一言



①島袋峯子さん②看護師③三重町④特別ありませんが、遊ぶことです。子どもと釣りとかに行きます。⑤入職して4カ月が経ちました。業務では利用者の方のチューブの消毒や滅菌をしたりしています。皆さん、声をかけてくれるし、親切だなあと感じています。働きやすい職場と感じています。朝のお祈りのせいでしょ。働きやすく感謝しています。



①廣瀬房子さん②通園事業こだま③野津町④休みは子どもたちと過ごしています。今、子育てで一生懸命です。⑤皆さんと仲良く楽しく過ごしていけるように頑張っていきたいです。



①<sup>こうしな</sup>神品康代さん②看護助手③三重町④趣味は特にありません。11月からこちらで働かせていただいています。少し慣れましたがこういう施設ははじめてなので、わからないことがたくさんありますので、いろいろと教えていただけるとうれしいです。どうぞよろしくお願いいたします。



▼退職  
言語聴覚士 秦麻弓様  
(1月31日付)  
ありがとうございました。  
今後のご活躍をお祈りしております。

## 人事



明治ホールディング株式会社及び株主さまが社会貢献活動の一つとして、「障がいのある子供たちを対象とした活動団体に明治製菓(自社製品お菓子)を贈呈したい」と仲介をされている日本NPOセンターの担当安池さまから県社協へ申し出があり、大分県内の各事業所(障がい児関連病院や施設・団体等)に募集したところ、当園が選ばれ、昨年12月24日に贈呈式がありました。当日はクリスマス・イブでもあったので「福祉の学校(野津高校)生徒さんをプレゼンターに」ということで、野津高校生徒会代表2名の方がサントラの衣装を着て、園の利用者の代表の方に贈呈して下さいました。皆さま、本当にありがとうございました。(丸山)

## 感謝

# 行事予定

※青色…施設外療育 ◎…ケースカンファレンス ㊟…個別  
 面談 ㊟…権利擁護委員会 ㊟…全体朝礼 ㊟…労働安全衛  
 生委員会 ㊟…リスクマネジメント部会 ㊟…入浴日

2月				3月			
1	火	㊟㊟		1	火	㊟㊟	
2	水		㊟	2	水		㊟
3	木	全体研修		3	木	㊟	
4	金		㊟	4	金		㊟
5	土			5	土		
6	日	大分重症児者施設連絡会 研究発表会		6	日		
7	月		㊟	7	月		㊟
8	火	◎		8	火	◎	
9	水	行事委員会		9	水		㊟
10	木		㊟	10	木		
11	金			11	金		㊟
12	土			12	土		
13	日			13	日		
14	月		㊟	14	月		㊟
15	火	◎		15	火	◎	
16	水		㊟	16	水		㊟
17	木	全体研修㊟		17	木	㊟	
18	金		㊟	18	金		㊟
19	土			19	土		
20	日	誕生会		20	日	誕生会	
21	月		㊟	21	月		
22	火	◎		22	火		㊟
23	水		㊟	23	水		
24	木	全体研修		24	木		
25	金		㊟	25	金		㊟
26	土			26	土		
27	日		㊟	27	日		
28	月			28	月		㊟
※予定は事情により 変更の場合があります。				29	火	◎	
				30	水		㊟
				31	木		

＜行事食＞  
 今年度の運動会の日  
 に料理したお弁当の写  
 真です。食事形態ごと  
 に写真にしています。ひ  
 と手間を大事にしてい  
 ます。(栄養科主任 東明美)



上から、普通食・  
 キザミ食・荒キザ  
 ミ食・極小キザミ  
 食・ミキサー食、  
 です。

## 編集後記



今年はうさぎ年です。「飛躍の年」でもあると聴きます。皆さまにとりましてますます  
 ご発展、ご活躍の年となりますように。本年もよろしくお願い申し上げます。(S・M)